

11月13日 保幼小連携公開授業・保育を実施しました

中筋小学校、池内幼稚園、なかすじ保育園で保幼小連携公開授業・保育を実施しました。

今年度の連携活動は、1回目「なつだあそぼう」での水遊び、2回目「むしをさがそう」、3回目「たのしいあきいっぱい」での自然に触れての活動を経て4回目となり、夏の小学校教育研究会生活科部との合同研修で作成した「あきのたからものであそぼう」の連携活動プランをもとに連携活動が行われました。

この研修で計画した連携活動プランに基づく活動は市内のどの協力園・校も実施することとなり、参加して下さった教員や保育者の皆さんにとって大変学ぶことが多い内容となりました。

公開授業・保育の後はカンファレンスを行い、鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生にご指導をいただきました。

日時:平成29年11月13日(月) 10:10~11:15

場所:中筋小学校体育館(A、Cグループ)

なかすじ保育園遊戯室(Bグループ)

参加園/校

永福保育園	池内幼稚園	朝来小学校	福井小学校
岡田保育園	倉梯幼稚園	余内小学校	三笠小学校
さくら保育園	舞鶴聖母幼稚園	池内小学校	明倫小学校
相愛保育園	三鶴幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
平保育園	舞鶴幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
タンポポハウス		倉梯小学校	与保呂小学校
なかすじ保育園		倉梯第二小学校	
東山保育園		志楽小学校	城南中学校
ルンビニ保育園		新舞鶴小学校	(50音順)
うみべのもり保育所		高野小学校	
中保育所		中筋小学校	
西乳児保育所		中舞鶴小学校	

公開授業・保育の様子

【ねらい】

1年生

○身近にある自然物から使ってみたいものを選び、試したり見立てたりして工夫しながらおもちゃを作ることができるようにする。

○友達や年長児と関わりながら、工夫して遊ぶ楽しさを味わったり自分や友達のよさに気付いたりする。

5歳児

○秋の自然物や身近な材料を使って、1年生と一緒に工夫しながらおもちゃを作り、遊ぶことを楽しんだり満足感を味わったりする。

【中筋小学校 体育館での様子】A、Cグループ

「なんでも材料コーナー」には1年生・5歳児がそれぞれに集めてきた自然物や空き箱などが置いてあり、「試作品コーナー」には、作りたいもののイメージを広げられるよう、1年生が作ったおもちゃ等が展示してありました。



「遊びのコーナー」や「修理コーナー」があることで、作ったもので遊ぶことができ、遊んでいる途中で壊れてしまうと作り直す子どもの姿も見られました。

1年生と5歳児がペアで活動をする中で、難しいところはさりげなく手伝ったり、動かないように物を持ったり、声をかけたりしながら、協力合っておもちゃを作る様子や、自然物の特徴を生かしたおもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりする姿もたくさん見られました。



Aグループ:中筋小学校1年1組 30名・池内幼稚園さくら組 35名
 Bグループ:中筋小学校1年2組 29名・なかすじ保育園きりん組 13名
 Cグループ:中筋小学校1年3組 29名・池内幼稚園うめ組 34名

【なかすじ保育園 遊戯室での様子】
Bグループ

遊戯室のステージ上には、1年生・5歳児がそれぞれに集めてきた物、連携活動の中で一緒に集めた自然物や、製作に必要な材料が置いてありました。「製作コーナー」と「遊びのコーナー」が分けられており、作ったもので遊ぶ環境が設定されていました。



作りたいものを考え、そのために必要なものを選び、考えたり、試したりして工夫しながら作る子どもや、他の子どもが作っているものに興味を持ち、刺激を受けて作る子どもの姿も見られました。それぞれに釣り竿を作っているにも、川に見立てた場所に集まり、1年生と5歳児とが、一緒に魚釣り遊びを楽しむ様子が見られました。

活動の終わりに振り返りをし、子どもが作ったものについて工夫したところを聞いたり、活動の様子等を伝えることで、子ども自身の気づきにつながり、1年生と5歳児とが学びを共有することができました。



カンファレンス

【中筋小学校 担任より】

◎小学校3クラスと、幼稚園2クラス・保育園1クラスでペアをつくり、その中で1年生と5歳児がペアになって活動をしている。
◎今回4回目だが、なかすじ保育園は近くにあり、すぐに交流できるので回数も多く、池内幼稚園とは月1回(7月、9月、10月)、4回目はペアの子の名前もよく覚えていた。
◎2園との話し合いで、個々が自分で考えて活動し、達成感を味わうことを大切に、一緒に遊べたらよい。遊ぶことを重視しようと確認した。



◎それぞれで自然の宝物を集めながら「使ってもらえるかな」「これでいいかな」と相手のことを意識していた。一緒に遊ぶということを思いながら集めていた。
◎作る時には手伝ってあげたい、教えてあげたい気持ちも感じられた。
◎1年生も名前を覚えた。
◎教室では「早く会いたい」と言っていたが、実際目の前にするとなかなか声をかけられず、初めは1年生がかたまって遊んでいた。だんだん打ち解け、自然とグループが一体となって遊ぶようになった。
◎自然とペアで遊んでおり、幼稚園児が1年生を誘う場面もあった。
◎就学時健診で「1年2組の先生や」と園児たちが学校を知っているという様子が嬉しく、今後一緒に遊び、交流したいと感じた。
【5歳児担任より】
◎緊張して園児だけに関わるが多かったが、だんだん慣れて自分から話かけられるようになった。
◎事前に玩具を見せて頂いていたので、「これ作りたい」と楽しみにしていた。

◎自分で材料を持ってこることで期待を持って参加していた。



◎自然と会話し挨拶しており、いつもと違う様子や新たな発見があった。反面、環境が違い緊張している様子もあった。
◎振り返りでは発表できない子もあったが、帰りのバスでは「楽しかった」と話していた。
◎目の前に学校があり、1年2組の教室で交流することもできた。初めは緊張していたが回数を重ねるごとに慣れて遊ぶようになった。
◎1年生から手紙を頂き、園児も返事を書く等の交流もした。
◎散歩で「これもいるかな」「1年生の分も」との会話も聞かれた。
◎難しいところを手伝ってもらいながら遊び、「こんなふうにできた」と伝える様子も見られた。
◎このような機会を作ることは大切だし、就学に向けてスムーズに移行できるようにしたい。

木下先生 指導・講評

どんな気づき、どんな発見、どんな探究をしたかということ、振り返りで伝える

～木下先生 カンファレンスより～



【全体について】

◎舞鶴の交流活動は互恵性が感じられ、教えてあげるという一方ではなく、一緒に遊ぶ、一緒に作る、一緒に学ぶということが指導計画の中からも感じられる。

◎毎日自然物に関わって遊んでいる保育所・幼稚園のよさをもっと出していきとよい。

◎中筋保幼小の活動はこれからが大事だが、交流としてはよかった。

◎1年生にペアの子の名前を聞くと、3人の内2人は名前を知っていた。担任も名前が言えるようになれば素敵である。

◎入学の時に、先生もお兄ちゃんもお姉ちゃんも校長先生も知っていると言心できる。

【時間について】

◎材料等を用意する時間に待っているのはもったいない。1年生が作っている中に幼児が入って来ればよい。導入はなくてもよかった。チャイムが鳴らないと始めてはいけないということはない。チャイムが鳴らなくても自分で始める力を育てる授業改善が必要。

【環境について】

◎材料が決まらず時間がかかった。いつでも手に取れる所においていくとよい。教室でも保育室でもよかったのではないかな。

◎体育館と遊戯室では全く雰囲気の違い、遊戯室はほどよい広さ・心地よい空間だった。

◎なかすじ保育園の遊戯室には子どもにあった低いテーブルがあり、その周りに顔を合わせて座り作っていた。そのため、自然と声が出ていた。

◎テーブルを低くして真ん中に材料を置くと違ったのではないかな。

◎小学校校舎の外などで、実際の落ち葉を使い作ってもよかった。

◎材料の中にメタセコイヤがあったが、生活科としては名前を調べることで探究につながる。

◎今日の単元は「あきのたからもの」なので、自然物がメインになるとよい。

◎集めたものは自分で持ってきてもよかった。大事にしていたもので作れば、選ぶ時にも時間がかからなかった。

【連携活動のポイント】

◎「仲良くしなさい」「優しくしなさい」は言わな

い。優しくしている子を振り返りでたくさん褒めることで周りの子も優しくするようになる。

◎「一緒に遊んで楽しかったね」で終わるともったいない。交流活動としては十分だが、**生活科としては、どんな気づき、どんな発見、どんな探究をしたかということ、振り返りで伝えることが大事。**

◎幼児は「何を作ったか」でよいが、1年生は「何を作ったか」ではなく、「作って何に気づいたか」が大事。

◎1年生が生活科として追求する姿を幼児が学んでいくことが大事。

◎導入で前回の気づきや、発見を知らせると活動がつながり探究になる。これが生活科ではとても重要。

◎**その時期にしかできない遊びをどう作るか。子ども達が秋にしかかないもの(木の葉、木の葉など)に触れ、日本の四季を肌で感じ、学んでいくことが大事。**

◎活動は枠に捉われがちだが、自然体でよい。保育園・幼稚園の自然体のよさと、小学校の客観的に見るよさを取り入れる。

◎小学校の先生と保育園・幼稚園の先生が互いに学ぶことが大事。

現地研修 11月4日 鳴門教育大学付属幼稚園 幼児教育研究会

現地研修として11月4日「鳴門教育大学付属幼稚園 幼児教育研究会」に27名(岡田保育園、タンポポハウス、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所)が参加しました。

午前の公開保育では、自然を十分に取り入れた環境や子ども自らが考え試行錯誤し、主体的に遊び込む姿やそれを支える保育者の関わり等、多くの学びを得ることができました。



び、子どもの主体的な遊び(学び)を誘い出す教材や環境等の研究を長年されており、その蓄積を実際に見て学ぶ機会となりました。

参加者からは、「自由に遊ぶ時間が十分あり、行きたい所でやりたいことをしている姿が見られた。」「子どもが遊びたいと思える環境を子

付属幼稚園では、環境を「遊誘材」と呼

どもと一緒に作りあげていく保育者になりたいたい。」「たくさんの素材を組み合わせて遊ぶ姿から、環境の大切さを感じた。他のクラスの子どものことも把握されており、クラスの垣根を感じなかった。チームワークの良さを見習いたい。」等の感想がありました。

